

文はとかれたれども、実には諸行は往生せずと料簡りょうけんしたりけり。この二義世間にひろまりけるほどに、法華経等は一部八巻よむもよだけし。真言の觀念は大事なり。一念は但南無阿弥陀仏と申せばやすし。させる功勞をも入らざる故に、在家の諸人は一向いっこう称名念仏しょうみょうねんぶつになりぬ。自然に法然ほうねんが義強つをりて多勢になるほどに、をぜいにをとされて、法華経・真言等を行じつる人々も、自義をすて法然が義をならいまねび、心よせにをもち、久修聖行の法華経等をすて三万六万等の念仏者になりぬ。結句けっくはことに天台真言の人々、法華経をすて念仏になる証人となれるなり。ここに第一の不思議あり。法然が一類の一向の念仏者法然・隆観・上光・善恵・南無・薩生さっしょう等或は七日・二七日、無記にて死ぬ者もあり、或は悪瘡あくそう、或は血をはき、或は遍身にあつきあせをながし、総じて法然が一類八十余人、一人も臨終よきものとなし。又一向専修の念仏者をもちうる在